



N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1112

06.07.2024 (135)

ミヒャエル・キューネン (Michael Kühnen)

第二の革命

第二巻：人民の国家

第9部

国家社会主義人民国家は、エリート層を組織することを意図しており、したがって、何よりも、第二のレベルである政府、行政、経済管理を、ちりばめられた特権経済、党の本のフィルゾクラシー、理想主義的頑固さの鎖から解放する。国家、経済、党のこのエリートは、プロイセン的な意味で、自分自身を全体の奉仕者として再び見ることを学ぶだろう。まず第一に、我々は、国家社会主義人民国家における二つのエリートを区別している：

- プロフェッショナルエリートや
- militant elite

プロフェッショナル・エリートとは、専門家、科学者、研究者、技術者の集団のことであり、彼らの協力なしには近代国家体制は考えられません。しかし、このプロフェッショナル・エリートは、余分な制約やイデオロギーによって、その仕事を妨げられていることがあまりにも多い。満足に

解決できない問題はない。たとえそれが、知識がまだ十分でなく、研究がそれほど進んでいない最初のうちは、その場しのぎの解決策に過ぎないとしても。しかし、今日の地平の先を見ることができず、現実未来を信じることができない無能な指導者層が、プロのエリートがその任務を果たすことを妨げている。

指導者層のイデオロギー的な硬直性から生じるこうした人為的な障害の好例が、東洋における経済計画の失敗であり、西洋における遺伝学、遺伝科学、生物学全般の進歩から遠ざかったことである：

遺伝的体質を改善するという国家社会主義の夢は、長い間その実現に近づいており、優生学的措置、すなわち遺伝的健康や人種衛生の必要性については、もはや科学的な疑いはないのである。ここでも、以前は「似非科学的」と揶揄された国家社会主義の思想の多くが、時間の経過とともに正当化されたのである。

しかし、これは多くの例の中の1つに過ぎない。あらゆる分野の専門家が、政治の無能さと官僚の愚かさが邪魔をすることについて、1つや2つ教えてくれるはずだ。

国家、行政、経済の管理という非常に複雑な領域で、なぜ余計な利害、イデオロギー、考慮事項が決定されなければならないのか理解できない。職業エリートに枠組みを提供しながらも、彼らが人民と国家に対する義務を自由に果たせるような秩序だけが、成功するのです。国家社会主義人民共和国は、これを実行することを決意している。もちろん、このような行動には、エリートの責任ある形成が前提である。教育は、それに応じて組織されなければならない：

教育のあらゆる分野で、そして最も早い時期から、才能のある人の促進をすべての取り組みの中心に据える必要があります。これは、今日の考え方とは正反対であり、その結果、常に達成度が低下することになる。スポーツ、リーダーシップ、科学、研究、工芸など、あらゆる分野で特別な才能や能力を発揮する少年たちを、すでに小学校で奨励しなければならない。この才能の促進は、社会的出身や経済状況とはまったく無関係に行われな

ければならない。たとえ才能が後になって明らかになったとしても、通常の学校制度からエリート校への移行は常に可能でなければならない。教育は、心身、意志、人格、知性が等しく訓練され、促進されるように行われなければならない。

国家社会主義フォルクススタートのエリート学校は、イデオロギー的な幹部学校ではなく、明日の職業的エリートを養成するためのものである。したがって、イデオロギー的な問題は、ここでは主要なテーマではなく、大枠に過ぎない。ちょうど、国家社会主義は本質的に教えられてはならず、模範とされなければならないという原則が常に守られなければならないのと同じである！

第三帝国の国民政治教育機関-NPEA's、頭文字をとってナポラでよく知られているのは、この点で、私たちが構築すべきモデルである。エリート校に続いて、高等教育が行われる。ここで、ドイツの大学もまた、まったく異なる構造を持つことになる：

カリキュラムと教育方法は、NPEAのものと同様の原則に従い、専門的な要件に従って設計されたポリテクニクと急造ポリテクニクを重視しなければならない。教育は合理化され、規律正しく行われ、学生たちは後に占めることになる指導的地位に特化して準備されることになる。

これに対して、実際の科学大学は、数は大幅に減るが、はるかに高いレベルで活動することができ、研究や科学への傾倒と能力を本当に示す人だけに開かれることになる。

大学や専門学校の教育もまた、目的がないわけではなく、他のすべてのヴォルキッシュ部門と同様に、国民全体に役立っている。国家社会主義のフォルクススタートは、今日の教育の混乱を解消し、したがって、この分野における部分的に正当化される不安の実際の理由も解消するのである。成熟した安定した人々からなる職業的エリートが形成されつつあり、精神的な障害者はもういない。

理論と実践の間、イデオロギー的目標と日常政治の必要性の間には、自然な緊張がある。国家社会主義運動は、この緊張の中で自らを挑戦している

と考え、ここで自らを証明しなければならない：

イデオロギーによってのみ決定される政府は、幻想に基づくイデオロギー的な政策を追求し、祖国を破滅に追い込むことになりかねない。- 一方、より高い目標にコミットせず、ただ日々の仕事をこなすだけの政策は、現状と比較してほとんど進歩をもたらさず、したがって、ドイツ人を徐々に国家的死に至らしめることになる。この緊張に耐え、創造的に形づくることが党の任務である：

プロフェッショナルなエリートが純粹に技術的な権力を行使すると、より高い目標や一般人の問題を忘れがちになりますが、このようなエリートに対抗できるのは、私たち国民の戦闘的なエリートを代表しているからです。

国家社会主義運動は、政府、行政、経済の指導者にとって代わることを望んでいるのではなく、我々の思想の枠組みの中で動くことを確認することを望んでいる。

我々は、国家社会主義ドイツ労働者党が、ヴォルキッシュの生活のあらゆるレベルにおいて、戦闘と教育の使命を果たさなければならないことを、すでに立証した。専門家や技術者と精神的、組織的に一致する存在であり続けるためには、それゆえ、国家と同じように、エリートを育成しなければならない。この党のエリートは、イデオロギー的な知ったかぶりに固まることなく、我々の信仰の価値を政治的に実行する方法を知っていなければならない。ここで議論される第二のレベルでは、党の使命は戦うことである：

"専門エリートの独立、すなわち国家社会主義の原則にもはやコミットしない独自の政府政策を阻止し、有能な専門家たちとの創造的な闘いの中で、将来のためのヴォルキッシュ政策と人種政策のための新しい、実現可能な計画を常に実行することに不安を持ち続ける！。"

しかし、私たちが政敵を殴り殺すのではなく、彼らを納得させ、教育しようとするように、私たちは党の力をイデオロギー統治のために使うのでは

なく、有能な専門家に私たちの考えの正しさと実現可能性を納得させることに任務を見出します。専門家エリート自身が納得して初めて、その技術、知識、想像力のすべてを駆使して、国民の利益のために成功を収めることができるのです。この説得の仕事は、関連する党の部署の仕事であり、私たちの教育的使命の一部でもあります。

これはおそらく、共産党が国家政党として単に意思を押しつける方法よりもはるかに困難であり、わが党に対する最も厳しい要求であるが、同時にはるかにやりがいがあり、有望でもある。

しかし、そのためには、職業的エリートに匹敵する知性を持ち、さらに、革命的な国家社会主義の先鋒として、我々の世界観が常に定めている目標を揺るぎなく追求する、活力と想像力を備えた戦闘的エリートを養成する必要がある。このことは、NSDAPの新しい世代の訓練に最も高い要求を課している。ここにも、第三帝国の機関、たとえ当時はまだ十分に発達していなかったとしても、アドルフ・ヒトラー学校というモデルがあります。

これらのエリート党学校は、たとえ焦点が異なるとしても、生徒に対してエリート国学校と同じ高い要求をする。そのカリキュラムは、集中的なイデオロギー形成と訓練によって補完されることになる。

党内の革命的な勢いと理想主義を維持するためには、あらゆる分野で党の同志に対する要求が高くなり、イデオロギーの刷り込みが他の仕事に加えて行われ、党へのコミットメントができる限り自発的であり続けるようにしなければならず、職業上および政治上の成果や成功を伴わない権力や昇進の機会をもたらされない。もちろん、これは党のエリート校の生徒にも当てはまります。

自発性の原則を維持するため、これらの学校は、州のエリート校とは異なり、すべての生徒に共通する小学校時代の終わりに活動を開始するわけではありません。

むしろ、すでに州立のエリート校にうまく通っていて、少なくとも16歳になっている、確信と熱意のある国家社会主義者の少年たちに門戸が開かれているのだ。

私たちの運動の悲劇は、平和的な復興の6年間を形作ることができただけだったということです。第三帝国における教育の再編成は、まだ長期的な効果を示すことができず、国家社会主義に影響された若者の大部分は、HJやNAPOLAの生徒の古い集団の献身が模範的に示すように、戦争の最後の年に英雄的に自己犠牲を払ったのである。私たちに一世代を与えれば、新しい世界を築き上げることができる！

もちろん、何世代にもわたって、国家指導部のプロフェッショナルなエリートと党指導部の戦闘的なエリートとの間の差は、徐々に小さくなっていくでしょう。しかし、それが完全に消えてしまうことは、我々の利益にはならない：

党と国家の統一は、融合ではなく、補完を意味します。

理論と実践の間の緊張だけでなく、我々がエリートの形成を高く評価することと、国家社会主義者の国民共同体の思想の間の緊張もある。ここでも、国家社会主義運動の革命的な正しさが要求される。もし、NSDAPが勝利した後、自らを官僚的な国家党に変身させるなら、それは、要求が多く、威圧的な国家機構の一部としてしか、人民の前に現れないだろうし、したがって、遅かれ早かれ人民の信頼を失うことになる。そうなると、階級や地位の障壁に関係なく、ヴォルキッシュ・エリートを養成することは、もはや何の役にも立たない。なぜなら、これもまた、国家の指導者としてのみ認識・評価され、もはや真のヴォルキッシュの指導者として全面的に認められないからである。勝利した後でも、党は人民の中にしっかりと固定され、無制限の信頼を保ち、自らをフォルクスゲマインシャフトの一部であると感じ、それに従って行動しなければならない。

民主主義の代わりに自由を

自由」という言葉は、「平和」と同様、現代で最も誤用されている流行語の一つである。ここでも、ドイツ連邦共和国を「ドイツ史上最も自由な国家」としきりに口にする民主主義者が、厄介な偽善者であることが証明さ

れている。

民主党は国民を解放したことがなく、せいぜい部分的に「民主化」したに過ぎない。その際、彼らは本質的に2つの「民主化」の尺度、すなわち経済と政治の2つの尺度しか知らない。どちらも人民の解放にはつながらない：

自由主義資本主義において、経済の自由とは常に、企業と国際的な高金利が労働者を搾取し、搾取する自由であり、労働者が組織化する「自由」とは、ストライキという歴史的に古くなった手段によって国民経済を麻痺させ破壊し、それによって自らの生活を危うくするためのものであります。働く権利が実現されず、労働者が生活の大部分を占める工場で起こることにほとんど影響力を持たないのに、どうして自由を語るができるだろうか。政治的自由についてはどうだろう。

国民の大多数にとっては、4年ごとに十字架を描くことくらいしかできない。基本法が言うように、今や「すべての国家権力は自分たちから発せられた」という誇らしい自覚のもとに。それ以外の人々は、自分たちの「代表者」が政策を決定するのを驚きを持って見守るだけである。国家安全保障当局は、国民が「反憲法的」な考えを持つことがないように慎重にコントロールしている！実際、政府、行政、経済管理の領域は、とっくに国民の効果的で責任ある共同決定を超えている。民主主義的な抗議は、ここでは何の役にも立たない：

人民によってではなく、人民のためにのみ統治することは、昔から可能だったのです。もちろん、民主主義者たちもこのことを知っているが、我々と違ってはっきり言わないのは、いわゆる「自由選挙」という時代遅れの仕組みが、真のパワーバランスについて国民を欺き、政権を維持するために抜群に適しているからである。

民主主義-人民支配はありえないが、シオニスト系で国際主義者で雑多な徒党を組むか、統一的で慎重に教育され責任感のあるヴェルキッシュ・エリートか、どちらの支配層が権力を持つかが問題なだけだと、正直に国民に伝えなければならない。

民主主義は自由とは無関係である。自由は、個々の市民の私的な生活領域で可視化されなければならない：

将来必要とされる教育を受けることができる自由。もちろん、家庭のコミュニティや会社で効果的な共同責任を負うことができる自由もあります。

民主主義の代わりに自由を：

これは、支配体制の基礎と政府の仕事の専門的権威に信頼を持ち、第三のレベル、つまり生活の個人的領域で責任を共有できることを意味します。そこでは、個々の市民が実際に権利と義務と責任を共有する能力を持っており、我々国家社会主義者は、民主主義者よりも「民主的」である。そして、ここで初めて自由が姿を現し、ここでドイツの自由運動の課題が見え、ここで自由で社会主義的な共同体が形成されるのである。

彼の自然な生活圏の形成を助けることができる人間だけが自由である-十字架を正しい場所に置くことを教えられた人間ではなく、チンパンジーでもできる。本質的に、私たちは、フォークの人生が形作られ、形成され、その中で彼の人生が行われることを通して、3つのフォークの有機体を見ることができます：

- 家族
- コミュニティ
- 操作方法です。

家族は、国民共同体の最小の自然な細胞として、国家社会主義人民国家によって特別に保護される。家族は、私的な問題ではなく、国家と党は、家族が共同体に対してその任務と義務を果たすことができるようにするための共同責任を負う：

家庭は精神的、肉体的に健康でなければならず、十分な数の子供を生

み、最初の数年間は、後に健康で責任ある市民、国家の同志となるような教育をしなければなりません。

国家はここで、法的な支援措置によって良好な枠組み条件を作り出す以上のことはできないし、してはならない。しかし、党は、家族に共同体に対する大きな義務を納得させ、今日のヴォルキッシュの崩壊の天幕に見られる崩壊の兆候と闘わなければならない。これらの脅威的な衰退の兆候は、国家社会主義運動が権力を掌握しても一夜にして消えることはないが、NSDAPの側に戦闘的な努力を要求しているのである。

ここにまた、闘争と教育という

党の使命が見えてくるわけです：

この分野では、家族を説得し、フォルクスゲマインシャフトに統合する責任は、主にNSフラウエンシャフトの手にある。

家族を内側から国家社会主義的に形成し、子供たちを民族共同体思想の意味で教育することは、すべてのドイツ女性の仕事の衝撃部隊である国家社会主義女性の仕事である。このため、総統は1933年3月14日の訓令で、10歳までの子供の養育と世話はNS女性に任せることにしたのである。帝国女性指導部の1938年の年鑑（メインプレス／宣伝部）には、この文脈でこう書かれている：

"ドイツの子ども会"には、6歳から10歳の少年少女が35万人以上所属しています彼らは手芸をしたり、冬に仕事をしたりして、海外のドイツの子どもたちを喜ばせています。母の日にお母さんを驚かせるために、小さな便利グッズを作ったりもする。そして、自分たちのおもちゃ箱の中から、国境を越えた子どもたちへのクリスマスプレゼントとして、Winterhilfswerkが何を使えるか話し合います。

子どもは「国民共同体」を理解する前に、このようにして、自らの小さな行為によってその内容を測ることを学びます。すべてのドイツ人の運命的なつながりを知る前に、小さな仲間にも自発的に溶け込むことをここで学びます。若い慣れが古い慣れを生むのであって、後に成長した若者として、どんな出自であれ、すべての若いドイツ人と同志で

あるドイツ人であることを意識的に感じることは、難しいことではないだろう。「ピンプ」や「ユングメーデル」、「ヒトラークューゲント」や「BDM」の少女として、この若者は、子供会が自分の中に呼び覚まそうとするものを、よりよく理解することができるでしょう。

子供たちに教えるべきは政治的な思想や理論ではなく、人格の価値や感情的な衝動を扱うことの方がはるかに重要であり、その上に国家社会主義を構築することができるのです。もちろん、10歳でユングヴォルクに入隊した少年は完成された人間ではありません。確かにユングメーデルはまだ変化することができます。しかし、10歳の子どもはすでにその発達の本質的な部分を終えているのです。最初の10年間の身体的な怠慢を後で完全に埋め合わせることができないのと同じように、教育上の間違いをこの年齢から埋め合わせるのは難しい。学校と家庭に加えて、子供会は、子供が生まれてからいつか力を発揮することになる地域社会への道を見つける手助けをしたいと考えています。

しかし、子どもたちが頭でっかちになったり、早熟な物知りになったりすることを心配する人は、私たちの子どもグループの午後の過ごし方を見てみるとよいでしょう。天気の良い日は、可能な限り屋外で過ごします。遊び、体操をし、走り、飛び跳ねる。怖がりなママの男の子は、弱音を吐くことさえなくなり、涙もろい女の子は、すぐに知られなくなります。彼らは勇敢で勇気のある人間になりたいと願っているからだ。遠足では、歌を歌い、音楽を奏でる。休憩するときは草むらに座り、グループのリーダーが童話や故郷の歴史にまつわる伝説を話してくれる。- グループリーダーは、家での午後のひとときに、何か新しいことを考えます。常に子どもたちの日常生活にあるものを結びつけ、子どもの理解に合わせた物語を語ることで、子どもの概念世界を広げ、子どもの中に国家社会主義の世界観が形成されることに加担している ...

子供たちのグループのリーダーたちは、自分たちの間で緊密な同志関係を築いている。彼らは、何度も何度も訓練を受け、刺激と指示を受ける。彼らは、子供たちを国家社会主義的態度に教育し、何よりも、

自分の姿、個人の態度で国家社会主義を子供たちに例証するという大きな責任を知っているからである。総統自ら、その言葉をもって：

"青少年は、まず第一にドイツを感じる事ができるほど早くから教育することはできない。" 国家社会主義帝国の子どもたちの教育全体が志向している。

国家社会主義者の家族政策の基本について詳しく説明する必要はなく、代わりに、元帝国総統のゲルトルート・ショルツ＝クリンクによる優れた文書「Die Frau im Dritten Reich」（グラバート出版、チュービンゲン 1978）を参照することにする。

いずれにせよ、ドイツ人家族、とりわけその中で育つ子供たちが、自由を、その自由を与えてくれる共同体に対する義務として常に理解できるように教育することが、党（ここではNS-Frauenschaftによって具体化されている）の仕事である。

この課題は、闘争の時期にすでにわれわれ国家社会主義者の女性と少女に突きつけられているものであるが、過去よりも今日のほうが、その遂行ははるかに困難である。それは、わが民族社会主義女性運動の闘う意志、説得の力、勝利への決意に対する大きな挑戦である。

しかし、私たちの民族共同体の最も小さな細胞から始めて、ドイツ人が党によって、自由を常に共同体との結びつきとみなすように教育されるならば、私たちは社会的解放、共同体や職場における共同責任に向けて、次のステップを踏み出すことができます。

人民の同志の労働と私生活は、基本的に共同体（ここでは村、町、地区の総称としてとらえる）と事業における条件によって決定される。

ここで初めて、個人の自由が現実証明されるのである。国家社会主義人民国家は、広範かつ効果的な共同責任のための自由な空間を創造することを決意している。私は意図的に「共同決定」を口にしない：

"共同決定"、それはまた、他人を顧みずに自分の特権や特権を確保し

たり獲得しようとする、あらゆるエゴイストやサボタージュが行うことでもある。人民と国家に対する根本的な反対からすべてを破壊しようとする人、選挙と議論のメカニズムを悪用して党利党略のスープを調理する人、みんなそうです。- 一方、私たちは、環境を人道的な方法で形成し、コミュニティを前進させたいという内なる欲求から生まれる共同責任のために戦います。

私たちは、コミュニティや職場における共同責任を、直接的かつ自由な個人的選択の形で、参加の可能性を拡張するものと考えています。

このコーポラティヴィズムの理解とシビック・デモクラシーの考え方の間に接点があることは、すでに指摘したとおりである--ただし、厳密に言えば、この文脈で論じられる国民生活の第三レベルに限定される。- 今さら詳細を述べるのは僭越であろう。1930年代に発展し、敗戦の渦に巻き込まれた可能性を再発見するのは、まだ始まったばかりです。例えば、フランス・ファシズムの創始者であるジョルジュ・ヴァロワに影響を受けた「セルクル・プルドン」の活動、NSDAPの革命派の思想、イタリア社会共和国（サロ共和国1943-1945）の社会プログラムなどを思い出すだけで、いくつかの提案をすることができます。

今日、私は「第三の道」の輪郭をほのめかすにとどめたい。ここでも、形づくりは革命的な展開に任せ、日々の政治闘争の中で-すでに対立している中で-考えをさらに発展させなければならないのである。われわれは、プレハブの理論をもってヴォルキッシュの現実に臨むのではなく、内政と外交の可能性に応じてこの現実を形成する課題に直面している。

このレベルで自由について話すだけでなく、それを実現することが極めて重要である。国家社会主義者は偽善者ではありません。私たちは、秩序を求めるところと自由を求めるところをあらかじめ言うておくのです！

国家社会主義人民国家では、自治体にも企業にも「国家党」は存在しない。NSBO（国家社会主義労働細胞組織）の活動家だからといって、地域のグループリーダーや労働評議会のメンバーだから市長になれる

と考える人はいないはずである。むしろ、彼は、自由な人格選挙で、複数の候補者の中から自分を主張し、戦闘的な国家社会主義者として、地域社会の誠実な信頼を勝ち取らなければならない。

ここでもまた、繰り返し言うが、党の地方や地区のグループ、あるいは国家社会主義者の工場細胞への自発的な加入は、国家の指導的地位への自動的で快適なポストとは関係ない。それは、闘い、勧誘し、納得させなければならない！

国家社会主義ドイツ労働者党は、闘争のときにも、われわれの国家を形成するときにも、困難なときに突然「決してわれわれとともになく、常にわれわれに反対する」快適で思慮のない仲間の旅人を必要としないのです。

党は、理想主義者、闘士、革命家からなる。だからこそ、ドイツの自由運動であり、民族の生きる意志を組織化したものなのです。それが敗戦からの我々の帰結である：

民主主義の代わりに自由を



NS KAMPFRUF
KAMPFSCHRIFF DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFFBAUORGANISATION

September 1934
April 1947 (2. Aufl.)

Der Kampf geht weiter!

Wahing Jahre nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung wieder da in ganz in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Mitglieder von Massenstab, Vorhut, Verfügung und Volkshilfen haben nicht nur erreicht, das Land der gesunden Idee unseres hoch geliebten Führers Adolf Hitler zu erobern.

Alle Nationalsozialisten sind weniger gefährliche Völker- und Rassenmenschaffen Schächer als Schächer im Kampf um die Erlangung unserer wahren Ziele.

Die Bewegung ist zwar wieder geworden, aber die Größe des hochgeliebten Volkstums ist keine noch viel größer als in der Vergangenheit.

Die vornehmliche Aufgabe ist es, Adolf, den Volkstums - gegen alle wahren Völker (V) - zu bringen. Seine Mittel sind Erziehung, Überführung und Kampfbereitschaft.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Massenstab, ob im Propagandakampf bzw. auf einem Schlachtfeld anderer Art. Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hitl Hitler!
Gottard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー
第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものです。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主に Adolf Hitler and the Army of Mankind (www.movingtheancient.com/truth.htm)に集中して取り組んでいます。現在2ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の戦後は、まさに情報の増産期です。1つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the NEW ORDER
Number 176 (132) Founded 1978 April 26, 2022 (133)

The Fight Goes On!

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware conservatives and racial kinemen fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture dilution, and race-mixing.

Whether "legal" or "illegal", whether in election halls or street battles, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind, every National Socialist must do his duty!

Hitl Hitler!
Gottard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー!

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト



BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com



NSDAP/AO
Fight Back!



nsdapao.org
Contact us to find out how YOU can help!